

を渡り島に着いて、ふと見ればお宮の石段をA君が降りてくる。

「いつもよくお参りに来るヨ」とA君いわく。「だけど、七年間もお参りに来ているが今迄に一度も会った事無いヨ」。と軽い会話を交わして別れた。さらに正午過ぎに昼食に蕎麦でも食べようと思いい西田川沿の蕎麦屋に入ってメニューにあるものを注文していると、またもやA君が顔を出した。「お前は、俺の行く所、行く所へいつも来るナ」と二人で大笑いした。連続して二日間に渡り一日に三回も同じ人物に出会うことは、なんとも不思議で気持ちが悪いくらいである。また、明日にこんな出合いがあったら大笑いだナ。

### 観光ボランティアガイドで熱海の全国大会に参加して

蒲郡地区 住山茂保

平成十五年十月二十一日、二日の両日に前記の大会が開催され、昨年の別府大会の参加者は約七百人でしたが、本年は約八百人の参加者があり盛大に開催されま

した。

蒲郡市からは六人が参加者し、開会式や基調講演の後、六つの分科会に分かれて意見発表が行われました。私は、第一分科会の「自然景観等による地域活性化とボランティアガイド活動」への参加でした。意見発表では、ボランティアガイドの方々を精力的に活動を続けていても、早急に地域の活性化につながることは難しいと云う発表が多く出され、特記する意見は見当りませんでした。しかし、印象に残った話は、熊野古道に関するガイドの人が「来年六月頃、熊野古道は世界遺産に登録される予定ですが、もしそうなると十数人のボランティアガイドだけでは多数の観光客に対応出来なくなると思うがどうしたらよいか」という質問がありました。それに対して、青森県から参加した助言者の方が「白神山地が世界遺産になってからは、毎日何十台という観光バスが往来するようになり、道が狭くて交通に支障をきたすので町役場に「道を広くしてくれ」と頼んだら、「道に合った小さなバスで来るように」と言う回答だけで何もしてくれなかった。しかし、十数

人のガイドだけでは対応出来ないので、行政に頼むしか方法はないね。」という助言があったことでもあります。

大会後、熱海市内を散策するグループに参加でき、おかげで地元ガイドさんの案内でしたので熱海の事を色々質問する事が出来ました。

散策で目に付いた「起雲閣」は、東武鉄道社長、根津嘉一郎の別邸を改造した旅館であり、蒲郡市の常磐館と同様に志賀直哉・山本有三などの文人が数多く訪れている有名な旅館でした。しかし、今では倒産して観光名所として入場料三百円で一般に開放されています。ボランティア活動の範囲の難しさと熱海の栄枯衰退を肌と感じた大会でありました。

### 高齢化社会と電化社会

東部地区 三林栄次

近年目立つ現象として電化社会がある。字を書くのも料理をつくるにしてもまさに電化？電化の現代である。また、会話にもしかりで昔は相手の顔を見て世間話

をしたり、笑ったりして楽しんだものだがそれが現代では、携帯電話と云うものに取って替られ相手の顔も見えず、表情も分からないまま用件のみをメールで送信して終わりとは何とも味気ない時代である。食事にしても、電子レンジと云う便利な物が出現し、冷凍食品や冷めた物等がアツと云う間に温かくなるなど、まさに文明の利器であり、時の移り変わりの早さには目を廻さんばかりである。しかし、私達高齢者だからと云ってそれを無視する事はできないので、それなりに電化社会に向って少しでも近づける努力をし、時代の變化に取り残されない様にしなければならぬ。

それには、まず心身共に健康を保ち電化社会に立ち向うと云う姿が大切だと思います。

現代においてパソコンと云う物は必要不可欠なものでありなかなか難しいものであるが、私達もこれを避けて通らず向かって行く必要があると思う。暇を見付けてパソコンの前でキーをたたいていけばボケ防止になるとも聞く、まさに一石二鳥である。また、天気の良い日には外に出てスポーツ等で体